

令和元年度「市長と語り合う会」について

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
令和2年 1月20日（月）	美濃公民館	19:00～20:00	19	6	25

- 市側出席者
市長、副市長、政策企画局長、総務部長、秘書課長

2 会の概要

- 開 会 （秘書課長）

- ・ 会の趣旨説明
- ・ 出席者紹介

- あいさつと市政運営の説明（山本市長）

最近ロードバイクで中西～小野地区のコースを走る機会が多く、美濃地区（傾成峠）もよく走っている。本年度の施政方針における基本方針は「連携の充実と発信」である。「連携の強化」「連携の進化（深化）」に続き本年度も「連携」を掲げ、行政だけでは困難なことについても、企業・団体・住民の皆様とともに進めることで可能になっていくと考えている。

・SDGs（持続可能な開発目標）に着目

今年度からこの連携にかかる考え方として新たに、SDGsを取り入れている。これは2015年に国連で採択された、2030年までに世界共通で達成することを目指した17の目標である。その中には「飢餓をゼロに」など日本においては既に達成されているものもあるが、エネルギーや気候変動対策など先進国共通の課題なども含まれており、「パートナーシップで目標を達成」などは施政方針にも通じる考えである。市の施策を世界的視野で見直すことで問題の本質を捉え直すことができ、連携の相手方とも世界共通の目標を共有し、共通の言葉で連携を深めることもできると考えている。今後、第二次総合戦略を進めていく中で、益田版SDGsを掲げていきたい。企業や各自自治体も着目し始めており、大事なことと考えている。

・萩・石見空港の利活用

東京線は平成26年から現在の1日2往復が復活し更新されて現在に至るが、羽田発着枠政策コンテストにより2年ごとに見直されており、令和2年下半期以降の発着枠について継続のために申請を行っており、間もなく結果が出る予定である。枠は増えたがエントリーも増えるとみられており、予断を許さない。関連市町・県と力を合わせ、地域発展の計画を国に提示し、2便運航が継続するようがんばっていききたい。搭乗実績の伸びが大変重要であり、平成30年度は目標14万6千人に対し、あと160人というところまで伸ばした。今年度も秋から冬にかけて伸びており、予約も堅調で目標14万8千人の達成も可能である。我が町の空港という意識を市民一人ひとりに持っていただき、ご協力いただきたい。

大阪線はここ数年、夏季限定運航となっているが、これも維持・拡大していきたい。

・ひとつづくりと人材確保

平成28年3月に「ひとつづくり協働構想」という人材育成の基本的な計画を定めた。この中で未来・仕事・地域づくりの担い手を重要施策と位置付けている。市内企業の人手不足、地域づくりの主体である人々の高齢化などに対応するため、企業や団体と連携して人材の育成と確保に取り組んでいる。市や地域で働く人に関心を持ってもらうために「カタリバ（注）」事業を行っている。参加する企業にとっても社員研修の一環として認知いただき、継続して関与頂いている企業がある。また、高校生が語る側となる小中学生対象の応用展開など、「益田版カタリバ」として独自の進化をしており、地域への愛着を深める取り組みとなっている。

（注）「カタリバ」：高校生と、若い地元社会人とがひざ詰めで語らう機会を設ける事業。交流を

通して高校生は自分の進路と地元について考える機会を、社会人は地域人として自分を見つめ直す機会を得ることができ、独自のキャリア教育として注目されている。

- 意見交換
質問項目は以下のとおり。詳細は別紙のとおり。

- ① 美濃公民館について
- ② 市道整備について
- ③ 救急車の運用について
- ④ 河川・市道の除草作業について
- ⑤ 地区振興センター廃止について
- ⑥ 公民館長の権限について
- ⑦ 交流人口について
- ⑧ アイルランドとの交流について
- ⑨ 農免道路について
- ⑩ 県道有田線について
- ⑪ 救急車の運用について（2）
- ⑫ 地元の歴史について

- 閉 会 （秘書課長）

令和元年度「市長と語り合う会」

〔会場 美濃公民館 開催日時：令和2年1月20日（月）19:00～20:00〕

要 望 事 項 等	回 答
<p>① 美濃公民館について 平成29年に地域自治組織を立ち上げ取り組んでいるが色々な課題がある。そうした中公民館が竣工しありがたく思っている。今後もよろしくお願ひしたい。</p>	<p>① 6年前の美濃小閉校は自分が市長になって初の閉校だった。地元のご判断に改めて敬意を表す。学校に替わる地域拠点について要望をいただきお待たせしていた。地域自治組織もつくられ、地域づくりも進んでいる。地元の方々の熱意に寄り添って市の施策を進めていきたい。</p>
<p>② 市道整備について 河内へ向かう市道が崩れかかって30年ぐらい経っている。復旧の順番などはどうなっているのか。</p>	<p>② 市全体で多くの補修要望があり、お応えしきれていない状況である。持ち帰り可能な限り早く対処できるようにしたい。</p>
<p>③ 救急車の運用について（1） 患者宅に向かう途中、木のはみ出しているところを通過するのに難儀しているのに遭遇した。地元の者が別の道へ誘導しようとしたが意思疎通ができなかった。①地元民と意思疎通をしてほしい。②高齢化した地元の者が木を処分することは難しいので土木などで対応してほしい。③緊急車両の通行が可能かどうか土木・消防で指導等の確認をしてほしい。</p>	<p>③ 臨機応変な対応ができるように、消防に指示したい。木の枝については、所有者に協力を求めて対応することは可能と思われるので、方法を検討したい。</p>
<p>④ 河川・市道の除草作業について 人手不足のため地域での継続が苦しい。市でやってほしいとお願ひしたところ、次年度分について今年度末までに知らせてくれと言われた。せめて予算がもう少しあれば人を雇うこともできるがどうか。</p>	<p>④ 単価を上げれば作業できる範囲が限られるので悩ましい問題である。適正な額をよく精査して、地元を理解してもらえよう土木に検討させたい。</p>
<p>⑤ 地区振興センター廃止について 昨年4月から公民館に一本化されたが、そのいきさつ等いまひとつ理解できない。あらためて説明を願ひたい。</p>	<p>⑤ センターは平成16年の合併時にできたもので、その狙いとする地域振興と、公民館の行う社会教育とは密接な関わりがあり線引きが難しい。それぞれ所管する部署も違う。一方元々公民館とは地域づくりなども担っており、一本化したうえで業務内容も幅広くとらえることとした。住民票の発行などは公民館でも引き続き行うなど、不便が起らないよう配慮して行っている。</p>
<p>⑥ 公民館長の権限について （いま特に問題があるわけではないが）今後研究してみたいので考えを聞かせてほしい。</p>	<p>⑥ 先述のとおり社会教育の施設であり、行政的権限をもって何かを行うというものではない。しかし地域における役割・存在感が大きいことも事実である。答えになっているかわからないが、地域の中で頼られる存在として、市としても尊重して施策を進めている。</p>
<p>⑦ 交流人口について インバウンドの取り組みが必要だが、浜田・鹿足・萩まで含めた広域の具体的な外国人客への対応を示す必要があると思う。フランスの方が</p>	<p>⑦ 交流人口については重要視している。全国的にインバウンドが予想以上に伸びているが、山陰への波及がまだ十分でない。お話にあったとおり在日フランス人の方に知恵をお借</p>

<p>コーディネートをされると聞き、期待している。</p> <p>⑧ アイルランドとの交流について 松江方面に偏ってしまう感がある。県東部との連携で行っていくのがいいのではないか。</p> <p>⑨ 農免道路について ファクトリーパーク（F P）周辺の道路端に草が生い茂り見た目が悪く、企業誘致にも影響があるのではと感じる。またMDS周辺では路面が傷んで段差がひどい。環境整備に予算を割いてほしい。</p> <p>⑩ 県道有田線について 改良について県に要望中と聞いているが、山陰道のルートに絡めて整備するチャンスではないか。そうした要望にもっと力を入れてほしい。</p> <p>⑪ 救急車の運用について（2） 出動する救急車の大きさについて、119番の際に希望を出すことができるのか。現場によっては大きすぎて手間取ることがあるように思う。</p> <p>⑫ 地元の歴史について 城九郎に「有福氏」所領の山城跡がある。近江の国に先祖があるとのことで、お伝えしておきたい。</p>	<p>りしている。広域で言うと、道路整備が重要で、ようやく山陰道益田～萩間の須子～小浜ルートがほぼ決まりつつあり、移動時間短縮で良い影響が出ると期待している。</p> <p>⑧ たしかに松江市に一日の長がある。益田市は始まったばかりであり、オリパラの自転車選手が昨年からトレーニングに来ている。担当が大使館に出向き、オリパラ後の交流についての話も始めたところ。松江市との連携も視野に、交流を活発にしていきたい。</p> <p>⑨ 市道・農道の整備は順を追って進めていきたい。F Pの誘致は「都吹」、「カツデン」などの誘致が決まり、少しずつ進んでいる。また山陰道須子～小浜間が、F P近くにインターチェンジを設けるルートで話が進んでいるので、これが決まれば誘致に弾みがつくと思う。</p> <p>⑩ 色々要望しているが、県にも財政事情がありすべてが順調には進んでいない。優先順位を上げてもらえるように、今後も要望していきたい。</p> <p>⑪ 狭いところの取り回しが厳しいとは思いますが、車両も少なく難しいのではないかと思います。確認しておきたい。 (後日確認) 1種類のみである。</p> <p>⑫ その先祖というのは、百足退治で有名な藤原秀郷（表藤太）の一族のことと承知した。ご紹介いただき感謝する。</p>
---	--